

2019 SUMMER!

茨城県立太田第一高等学校野球部 5

○ 1回戦 水戸市民球場 第2試合 ・ ・ 7月8日

2019年夏、第101回大会の初戦が7月8日ノーブルホームスタジアム水戸で行われました。対戦校は土浦一高。抽選会後から、各新聞社とも「**伝統校同士の一戦、オールドファンも注目の好カード**」と記事にしました。

なかなか梅雨が明けない夏でしたが、この日は久々に**太陽**が顔を出し、まさに「**夏**」の大会となりました。太田一高は全校応援。応援生徒が1試合目の途中から外野席に続々と集結し、太田一高vs土浦一高の第2試合を今や遅しと待ちました。



シートノックでいい動きを見せ、ミーティングでも全員がやる気に満ちたい表情です。ベンチの中でいつも通りの**サイキングアップシャウト**。熱気にあふれて**戦闘モード**は最高潮となりました。さあいよいよプレーボールです！



さあ、行くぞ頑張れ！ 太高健児

2019 SUMMER!

茨城県立太田第一高等学校野球部 6

両投手が好投し5回まで両チームとも無得点。緊迫した投手戦でしたが、先制したのは太田一高でした。6回表、先頭小林（蒼）がセンター前、佐藤が死球で出塁。一死1・2塁から小林（直）がセンターへ見事先制タイムリー。さらに後藤がセフティーバント成功で一死満塁。ここで相手にバッテリーエラーが出て2点目を追加、湧き上げる大観衆、ついに2-0とリードしました。



7回裏にはノーアウト満塁の大ピンチとなりましたが、エース佐藤（真）の気迫のピッチングで無失点で切り抜けました。一塁側スタンドのボルテージはMAXとなりました。



躍動する選手たち、青龍団と吹奏楽部がリードする全校応援、グラウンドとスタンドがひとつになって燃え上がります！

2019 SUMMER!

茨城県立太田第一高等学校野球部 7



7回裏の無死満塁の大ピンチを佐藤（真）の気迫のピッチングで凌ぎましたが、続く8回裏に相手打線につかまり2-3と逆転を許しました。



同点逆転を信じての9回、全員全力で臨みましたが、2-3のまま無情にも試合終了のサイレンが鳴り響きました。しかし、最後の最後まであきらめず戦い抜いた部員全員に、場内から大きな拍手が贈られました。



◇ 101回目の夏が終わりました。しかし、全員が輝きました。
3年生、本当にお疲れ様。

2019 SUMMER!

茨城県立太田第一高等学校野球部 8

2019年(令和元年)7月9日 火曜日

茨 城 県 立 太 田 第 一 高 校

◇ノーブルホーム水戸
=第2試合
▽1回戦
太田-0000002000 2
土浦-00000003x 3
三塁打 繁森、酒井
二塁打 谷田部、藤
文▽暴投 佐藤真、古
宮2▽試合時間 2時
間12分▽審判 根本
一、鈴木厚、窪田、倉田

太田一打安振球
古宮0000000000
土浦0000000000
三塁打 繁森、酒井
二塁打 谷田部、藤
文▽暴投 佐藤真、古
宮2▽試合時間 2時
間12分▽審判 根本
一、鈴木厚、窪田、倉田

太田一打安振球
古宮0000000000
土浦0000000000
三塁打 繁森、酒井
二塁打 谷田部、藤
文▽暴投 佐藤真、古
宮2▽試合時間 2時
間12分▽審判 根本
一、鈴木厚、窪田、倉田

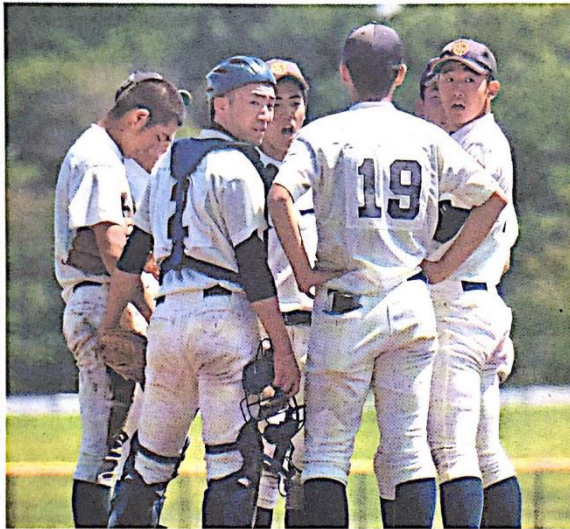
古宮 377912

◇ノーブルホーム水戸
=第1試合
▽1回戦
太田-011107 11
土浦-000200 2
三塁打 葛西健、北
高野▽二塁打 三木
拓、北高野▽試合時間
1時間54分▽審判
坪井、喜田、安田、稲

小安三打安振球
葛西0000000000
土浦0000000000
三塁打 繁森、酒井
二塁打 谷田部、藤
文▽暴投 佐藤真、古
宮2▽試合時間 2時
間12分▽審判 根本
一、鈴木厚、窪田、倉田

古宮 229121063

太田一土浦 8回裏、ピンチの場面でマウンドに集まる太田一ナイン。右端が佐藤真投手。ノーブルホーム水戸



太田一 逃げ切れず

土浦一、逆転勝ち

【土浦一3-2太田一】
【評】土浦一が終盤八

回、藤又、酒井の連発を放った。古宮は先点打で1点を返し、反撃の好投好打だった。土浦一は6回の2得点で投手戦の均衡を破り、逃げ切れなかった。土浦一は2点を追う八高が決勝の中前連打だった。

古宮よくやってくれた
土浦・柴沼剛己監督(33) 投手の古宮(土浦、3年)は苦しい展開でも最後まで球威を保ち、打線を信じてよくやってくれた。

焦点

佐藤真、八回に力尽く

太田一高野球部



八回裏同点追いつかれ、なにも死に三塁のピンチ。太田一のエース佐藤真、3年、はそれまで左打者打ち取っていた外角低めの直球を放った。「よし、投げた瞬間、好感触を持ったボールは中前にはじき返された。太田一は八回に3失点し、土浦一に逆転負け。佐藤真は五回無死三塁、七回無死満塁を無失点で切り抜けたが、最後は力尽きた。試合後、石川陽人主将(同)は「打たれたのはあいつの責任じゃない。打てなかった自分たちの責任」とエースの力投をねぎらった。

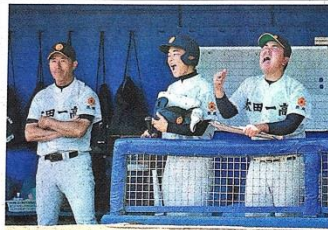
今年4月下旬、「エースで4番の佐藤は練習試合で緩いカーブを投げると顔をゆがめ、「バットを握れませんが」と矢張り監督(53)に訴えた。診断結果は左手の有

鉤骨の骨折。春の県大会出場は断念し、大型連休中に手術で折れた骨を取り除いた。約1カ月間野球ができず、ウエイトトレーニングに励みながらチームを客観的に見つめた。白球に触れない日々の中で、「野球が大好き」とに感謝し、「野球を愛するようになった」。けがの経験が簡単にには動じない心をくづり、また、下半身強化と球速と制球力を向上させた。

「楽しむ」をテーマに掲げた大会。この日は8回6安打3失点と粘った。敗れはしたが、「最後まで思い通りに投げられた。試合を愛していた」と胸を張った。(藤谷俊介)

◇日立市民=第2試合
▽1回戦
太田-000000 0
土浦-000000 0
三塁打 繁森、酒井
二塁打 谷田部、藤
文▽暴投 佐藤真、古
宮2▽試合時間 2時
間12分▽審判 根本
一、鈴木厚、窪田、倉田

裏ネット



太田一の男子マネージャー、室頻(18)は心臓の病気をもち、中学時代に3回手術してから、助監督。現在は9割治ったものの、経過観察中で、運動制限がある。祖父、父と同じ太田一に進学後は、野球部で男子マネとして活動。この日で高校野球生活は終わったが、「充実した2年半だった」と表情は充実感に満ちていた。

今後野球に携わるつもりだ。「高校の教員になって、野球部の顧問になり、甲子園を目指したい」と話した。

2019年7月9日付
茨城新聞

転載許可書取得済